

卒業後の職業生活におけるコミュニケーション能力の向上を目指した授業の展開

－「コミュニケーション能力チェックリスト」の作成・活用を通して－

特別支援教育班 百瀬浩安(特別支援学校教諭)



生徒の願い → 職業生活の安定と充実 ← 保護者の願い



事業所のニーズ 職場で「円滑なコミュニケーション」がとれるといい…

卒業生の声 職場であいさつはできるけど、「声をかけるタイミングがむずかしい…」



職場での円滑な人間関係やコミュニケーションを築く力を身に付け
安定し充実した職業生活を送ることができるようになりたい

コミュニケーション能力チェックリストの作成と活用



聞き取り(事業所 卒業生 保護者)から、職場での必要性が高く、職業生活を送る上で大切なことからについて

「聞く・話す」「対人関係」「状況判断」に項目を絞って作成

卒業後の職業生活をふまえて作成し、実際の、体験的な活動を多く取り入れた学校設定教科「社会生活」の学習で活用

行動のポイントを示す
・どのように行動したらよいのかが具体的に理解でき、安心して、行動化できるようになる

コミュニケーション能力チェックリスト			
項目	行動のポイント		評価
1 よい距離で人と関わる	1 近すぎなかった。(パーソナルスペース)	2 遠すぎなかった。(大きい3歩)	
2 相手にきちんと話しかける	1 相手に声をかけた(独り言のようではなく)	2 名前を呼んだ(「〇〇さん」、「〇〇先生」)	
3 相手にきちんと話す	1 報告した(「できました」「ミスしました」「これいいですか」)	2 顔を見て話した	
	3 適切な声の大きさを意識して話した		

3段階の評価点をつける
・自分自身のコミュニケーション能力の習熟度を把握できる
・具体的な行動目標を立てやすくなる

意識化

共通理解

授業の導入の場面で、取り上げる項目について示す
学習のまとめの場面で、取り上げた項目について振り返る

生徒と教員が、共通した項目と行動のポイントで評価する
生徒が行動目標を見直したり、新たに立てたりする



職業生活におけるコミュニケーションに関する学習内容を構成

自分の言動に関心を持ち、職場で予想されるさまざまな場面における適切なコミュニケーション

について考えたり、役割演技で実践したりし、職業生活におけるコミュニケーション能力を向上する

実際の場面で行われることが多い状況を設定した学習

学習内容を構成

実際の場面を想定した具体的で体験的な学習を設定

- ・周囲や上司へのあいさつ
- ・仕事における報告
- ・会話中に用件を伝える
- ・人のそばを通るとき
- ・昼休みの会話
- ・遅刻や欠勤する時 など

「学習内容のモデルビデオを見て(授業の一場面)」

1 考える

気付いた点…

自分だったらどうする…

2 役割演技で実践

自分と相手の立場…



役割演技に取り組む様子

成果

学習経験を汎化するきっかけとなった

作業学習の場面において「コミュニケーション能力チェックリスト」を活用した指導を具体的・継続的に実施していき、社会生活科での学習経験を他の場面で実践していった。

複数の教員で指導の改善ができた

教科や日常生活の場においても複数の教員が、「コミュニケーション能力チェックリスト」と行動のポイントを示し、生徒の意識の向上と実践を促し、指導の改善につながった。

課題

一人一人に応じて具体的に設定する

生徒一人一人の具体的な課題と向上させたいコミュニケーション能力を、個に応じて具体的に設定していく必要がある。

系統性をふまえた学習計画を構築する

学習内容の汎用性を追究していき、学年や段階に応じた目標と学習内容を整理していく必要がある。